

# 中田かわら版 4月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会  
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所  
横浜市踊場地域ケアプラザ

## ■この人に会いたい<24>

### バレーボール優勝請負人 奥津 榮一さん (78歳) 中村



奥津榮一さん

FCとしては文句なしの高校No.ワンである。トス、機を見ての攻撃のセンス、ストップのタイミングの良さ。サーブはネットを越えてから、やや流れるようなドライブなど、前・中衛攻撃者として通用する技術を一身に兼ね備えている。中央大学3年、奥津さんがインターカレッジでの活躍を「ベースボールマガジン」誌が激賞した記事である。バレーボールの名門校藤嶺藤沢高校に入学、1年からレギュラーになり3年間大活躍。県大会、関東大会3連勝、全国大会もインターハイ・国体にも3年連続出場。昭和29年の小樽国体と明石国体では全国優勝に輝いている(1年生の時、神奈川県スポーツ賞を受賞)。

奥津さんは昭和13年6月、奥津正吉氏の3男として中田で生まれる。長男は元市議員の喬雄氏、次男は勝司氏(前中田地区環境推進委員会会長・向根下)である。明治20年代、旧中田村の経済復興と教育に尽力した奥津喬治郎氏は祖父に当たる。中和田小学校卒業後、藤沢中学に入学。藤沢はバレーボールのメッカと言われ盛んなところ。入学時は175cmの長身を見込まれバレーボール部(9人制)に誘われたのがバレーボール(9人制)との出会だった。3年生の時、神奈川県大会で優勝。主将でエースアタッカーとして活躍。高校はバレーボールの名門、藤沢高校へと進む。高校に入ってから活躍は前述の通りだ。この逸材に声をかけたのが同校OBで中央大学のキャプテン、「君の力で中大をぜひ伝統校にしてくれ」。3年の時、早くもインターカレッジと関東大学リーグ戦で初優勝。エースアタッカーとして名声高く優勝に貢献している。その後、同校の黄金時代が現在も続く。オリンピックでも6人制バレーで多くの選手を輩出している。特記しておこう。奥津さんのサーブジャンプ106cmは未だバレーボール界では日本一の記録として燦然と輝いている。実業団では現在の新日本製鉄(北海道)にスカウトされ、数多くの全国大会や国際親善試合などに出場し活躍してきた。国体(全国)には通算12回出場している。



表紙を飾った奥津さん(右)

平成元年(1989)、30年ぶり北海道からふるさと中田に戻る。バレーボール生活で全国のボランティアたちからのお世話になったお礼に「地元で恩返しを」。そんな思いで平成5年4月、中田体育指導委員に。15年4月に同体指会長に就任、6年勤める。17年4月、泉区体指会長4年など数々歴任。その後、中田連合自治会副会長を4年間務め、その他、中田地区経営委員会、和の会などで活躍。最近では「中田かわら版」の代表として100号の発行に貢献している。

#### <主な表彰歴>

\* 平成20年1月、横浜市体育指導委員永年勤続(15年)。6月、関東体育指導委員連合功労者。10月、横浜市教育委員会功労者。11月、全国体育指導委員連合功労者

\* 平成22年2月、横浜市体育指導委員会連絡協議会功労者など。最後に愉快的エピソードを一つ。高校3年の時、全国優勝し地元藤沢で優勝祝賀パレードがあった。ところが選手たちを乗せた自動車が、こともあろうに中田の実家まで来てしまい町中が大騒ぎになった。ときの同校PTA会長は奥津さんの父正吉氏であった! よほどうれしかったのだろう。(編集委員 宮田貞夫)

～一人ひとりがCO<sub>2</sub>を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう!～

## ■寸劇フェスティバル

### 「中田・しらゆり子育てネット」奮闘

3月13日、泉区民文化センター・テアトルフォンテにて開催された。参加8団体、来場者数305人という盛況の中、中田・しらゆり子育てネット「子育てママからのメッセージ～泉区を子どもたちの故郷に」の発表が行われた。



エンディングでのオリジナルテーマソング「空たかく」では前回同様、会場に大きな感動を呼んだ。昨年7月、中田・しらゆり子育てネット定例会の中で、中田地区社会福祉協議会、飯島猛旦会長より、「昨年が続いて寸劇フェスティバルからお誘いを受けました」という声かけに、親子サークルの



お母さん方の「ぜひやりましょう」という強い思いで始まった。寸劇の内容は今回も実際に会議で出た話が基に構成されている。

寸劇フェスティバルノーカット版は YCV チャンネルプラス① (101ch) にて放送予定。

▶ 放送日時は、4月の毎週(日)18時～他

(葛西健一)

## ■中田地区社協合同研修会

### 「障がい」と福祉サービス・「かがやき」を中心として

中田地区社協(飯島会長)主催で平成28年合同研修会(1月23日)があり、講師として泉地域活動ホーム「かがやき」施設長・牧信宏氏の上記テーマの講演があった。話は「障がいとは」から始まる。親はごく普通に生まれたと思っていたが、成長するにつれ笑ったり、歩くようになった時、一般の子供とは少し変わっていることに気づく。



講演する牧さん(中央)

でも、障害であるとは認めたくない親の気持ち。医師の検査で知らされ、親は初めて現実を認めることになる。そうした場合、どのような支援やサービスがあるのか、地域とどう関わっていけばいいのか。出席した約50人は、ふだん地域で福祉やボランティア活動をしている人たちであり関心を持って聞き入っていた。

続いて年齢別による相談・生活支援や受け入れ施設などが報告された。<1～3歳>子供の育ち支援事業、区福祉保健センター<4～6歳>相談支援事業、生活支援(一時ケア)、\*苗場保育園ほか、<学童期>(小・中・高)生活支援(一時ケア、ショートステイ)、余暇活動支援。\*中田小学校(特別支援級)\*つぼみの広場ほか<学校卒業後>日常活動支援事業、\*なかだ作業所・共働舎など。問題は高校、主として養護学校を18歳で卒業後、社会に出て働く受け皿になる所が少ないのが現状だ。多くは地域作業所などが受け入れ先になっているが、どこも定員過剰気味。横浜市だけでも毎年、およそ800人の卒業生がいる。市では年に1,2カ所の作業所を造っているがとても追いつかない。

障がいを持った親は24時間ともに生活することが多い。妹弟の運動会、文化祭、親戚の冠婚葬祭にも出たい。そうした要望に応え「かがやき」では相談・生活支援、計画相談支援事業、自立アシスタント事業、ショートステイ、余暇活動支援事業などがあり、大いに利用し自分の自由な時間を作ってほしいと言う。地域においても「障害を持つ人たち」のことを理解し、温かく見守っていくことが大切と牧さんは話している。

講演の後、障がい者後見的支援室「しーど」(中田東3)や泉区移動情報センター(障がい児・者の外出に関するサービス制度)の紹介と説明があった。

(宮田貞夫)

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。[www.odoriba-cp.jp](http://www.odoriba-cp.jp)へアクセス!!